



SuMi TRUST
SUMITOMO MITSUI TRUST GROUP

2018年度第3四半期 決算の概要 － 補足説明資料 －

2019年3月

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。当社の財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、決算短信(および決算説明資料)、有価証券報告書、ディスクロージャー誌をはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。

また、本資料に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当該情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

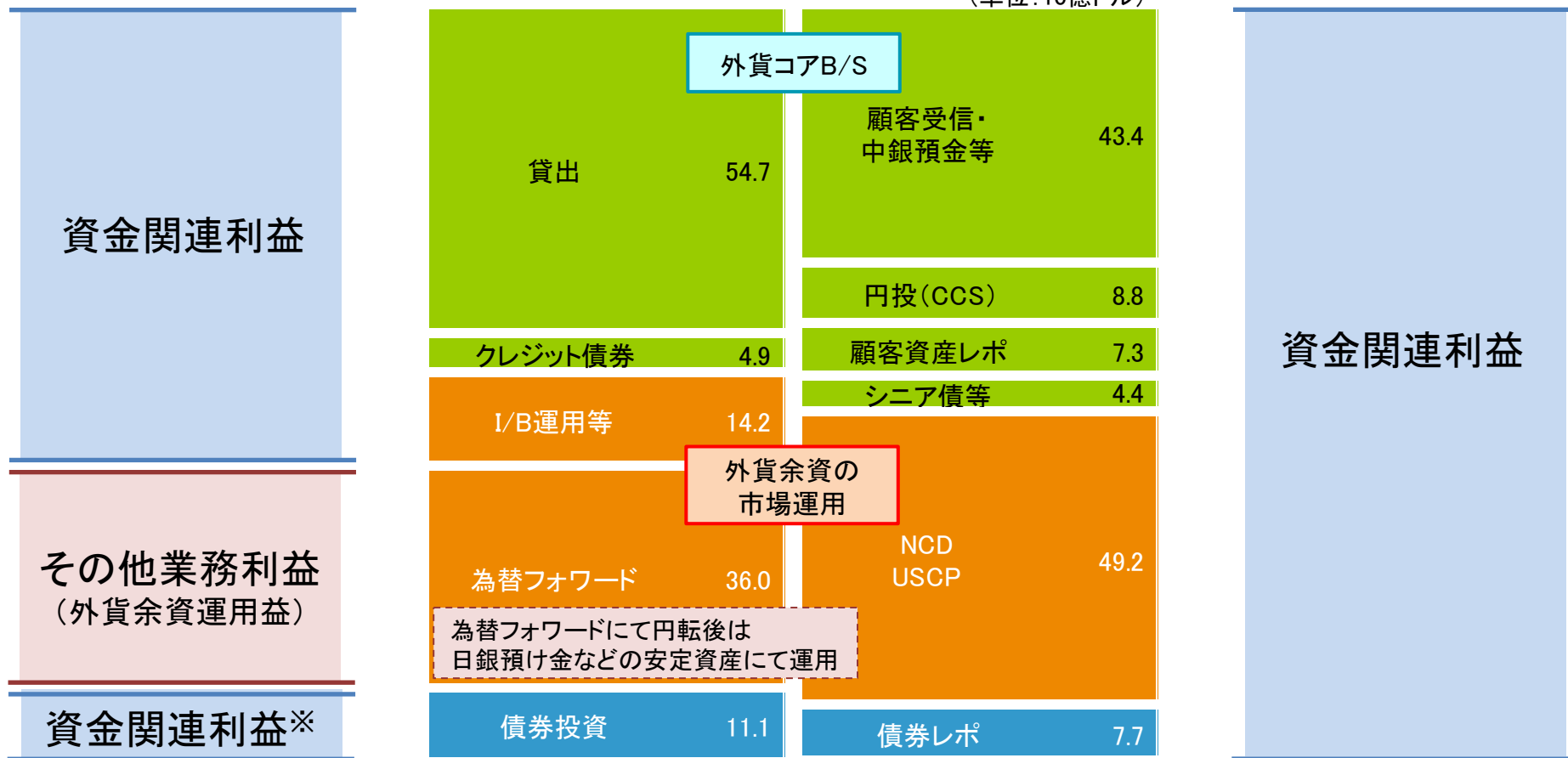
なお、本資料に掲載されている情報は情報提供を目的とするものであり、有価証券の勧誘を目的とするものではありません。

外貨余剰資金の資金運用（三井住友信託銀行）

- ▶ 「外貨余剰資金の市場運用」においては為替フォワード取引による外貨の円転取引を行っているため、運用と調達の間で勘定科目の「泣き別れ」が発生（運用：その他業務利益／調達：資金関連利益）
- ▶ 為替フォワード取引とNCD/USCP調達の取引期間は短期かつほぼマッチングしている

外貨B/Sの状況(18/12末)と収支構造

(単位:10億ドル)



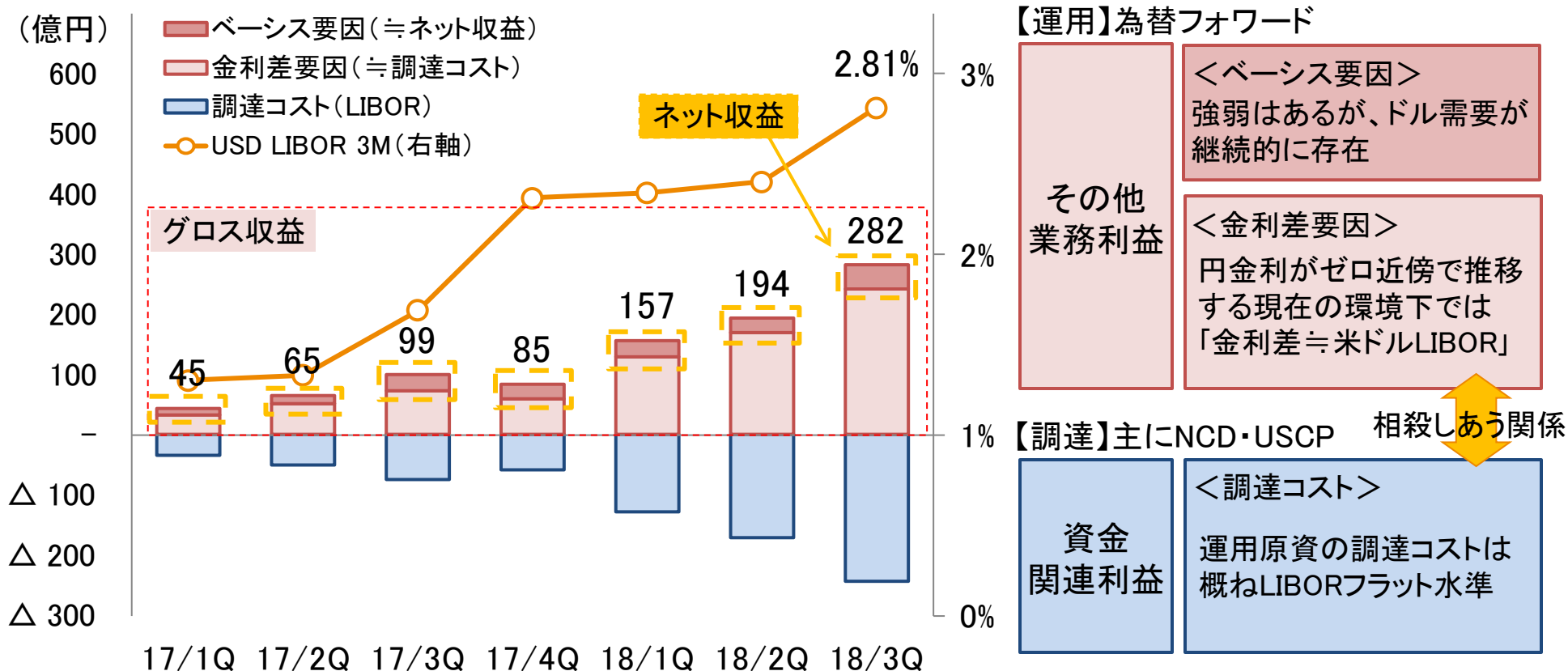
※債券売却損益はその他業務利益の国債等債券関係損益に計上 上記合計 121.1

上記合計 121.1

外貨余資運用にかかる損益の構造（三井住友信託銀行）

- ▶ 為替フォワード取引（運用）の収益源泉はベース要因と金利差要因だが、金利差部分は調達コストと相殺しあう関係
- ▶ 単純化すると、外貨余資運用のネット収益（調達コスト差引後）は「ベース要因×運用・調達のボリューム」となる
（過去2年間での半期毎のネット収益は約30億円～50億円）

外貨余資運用にかかる損益



※ 上記は内容理解を促す観点から単純化しておりますが、実際の調達・運用は市場環境に左右されます